

行政・学校・大学・地域・民間が協働で取り組む社会課題解決

ジュニアスポーツ・文化活動地域展開事業

～ 持続可能な豊かな地域教育体制の構築を目指して ～

Part 01

改革の必要性と 地域展開の定義



部活動の地域展開が進行中

■ 文部科学省・スポーツ庁が部活動の地域連携を推進しています。

令和5年度から、休日の部活動の地域連携・地域移行が始まります

これから、だんだんと、休日の部活動は学校単位ではなく、**地域クラブ活動**として地域で実施するようになります。これは、**子どもたちのための大改革**です。部活動のこれまでの「当たり前」から抜け出し、地域で行うクラブ活動として、新しい「当たり前」を創り出しましょう。

どうして部活動改革を進めるの？
 全国で **少子化** が深刻化

- ✓ **1運動部あたりの人数の減少**
特にチームスポーツなど部員数が足りない団体戦に出られない・練習試合ができない!
- ✓ **中学校における部活動設置数の減少**
やりたい部活が学校にない!

子供のスポーツ機会を守る
地域の子供は、学校を含めた地域で育てる

- ✓ 地域で多様な活動を楽しめる
- ✓ 有資格者・専門性のある指導者
- ✓ 学校を越えた仲間獲得
- ✓ スポーツに限らない多様な体験
- ✓ 多様な世代との豊かな交流
- ✓ 引退後も継続したスポーツ機会

他にも…

- ✓ 専門的な指導を受けられない
- ✓ いろんなスポーツを体験してみたい
- ✓ 引退後、続けられる場所がない

部活動改革ポータルサイト ~学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けて~
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcstetop01/list/1372413_00003.htm
 室伏長宣からのメッセージや部活動に関するガイドライン、全国の事例、各種制度、FAQ、広報素材等を紹介しています。 部活動改革

(スポーツ庁HPより)

文部科学省

令和5～7年度：**部活動の「改革推進期間」**

合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて**可能な限り早期の実現を目指す**よう、各自治体に求める (スポーツ庁HPより)

休日の部活動を

学校



地域

なぜ、部活動改革が必要か？

A. 「子ども達の持続可能で豊かな文化スポーツ活動体制」を作るため

背景

1 少子化による生徒数の減少

学校単位での活動の限界



- ・平成の30年で中学生数が**40%**減少
- ・チームを組めない部活が多数存在
- ・できる種目が限定されている

2 教員の大きな負担

教育活動の質低下
教員志願者の減少



- ・国際的に日本の教員勤務時間は非常に多い
- ・社会全体の働き方改革の推進

このままでは、子どもたちがスポーツ・文化活動体制を維持していくのは難しい。持続可能な体制を地域全体で創っていく必要がある。

Part 02

つくば市が目指す 改革ビジョン



つくば市における部活動改革のビジョンとミッション

ビジョン

持続可能で豊かな文化スポーツ活動体制を構築することで
子ども、及びつくば市民のウェルビーイング※を実現する

※ 人との“つながり”を感じ、心身ともに健康でいきいきとしている状態

ミッション

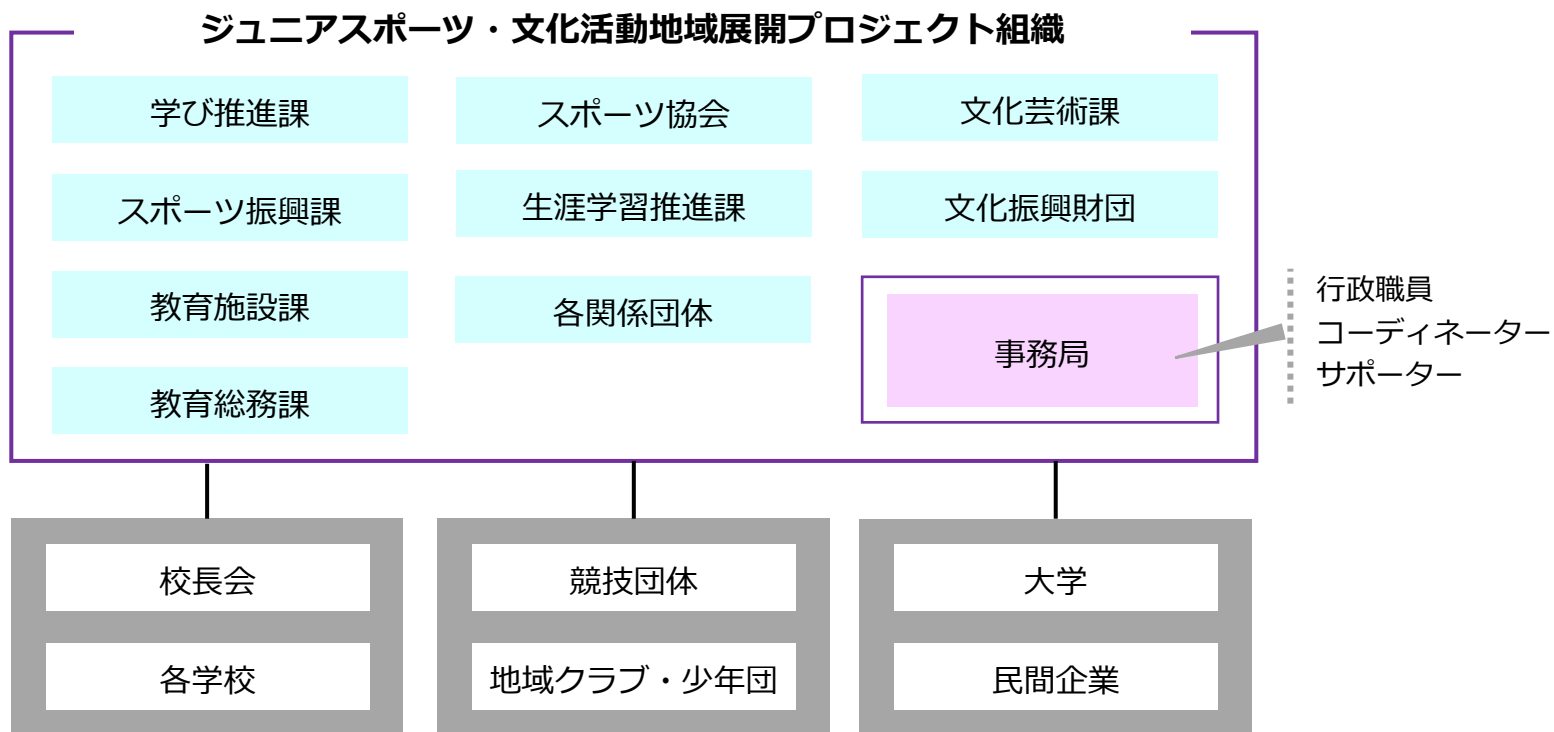
- 子どものニーズに応じて、**健全かつ多様な文化スポーツ活動を選択できる環境** を創り出す
- 教員が専門性を高め、生徒に向き合い、**質の高い学校教育を提供できる環境** を創り出す
- つくば市民に開かれ、生涯にわたって関わり続けることができる **文化スポーツ活動コミュニティ** を創り出す

Part 03

改革実現に向けた 組織体制



つくば市における改革推進組織体制



Todo

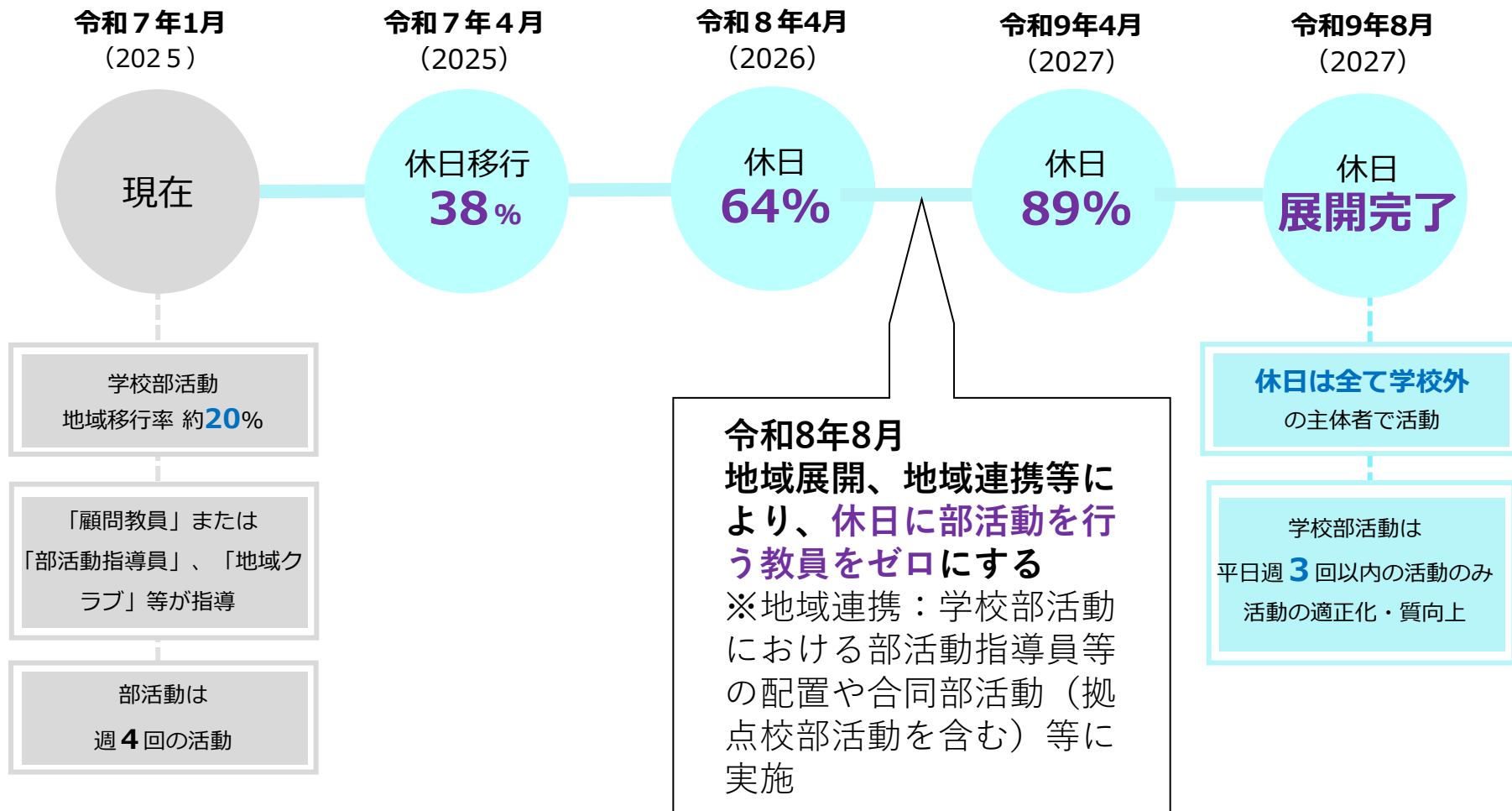
Part 04

改革ロードマップと アクションプラン



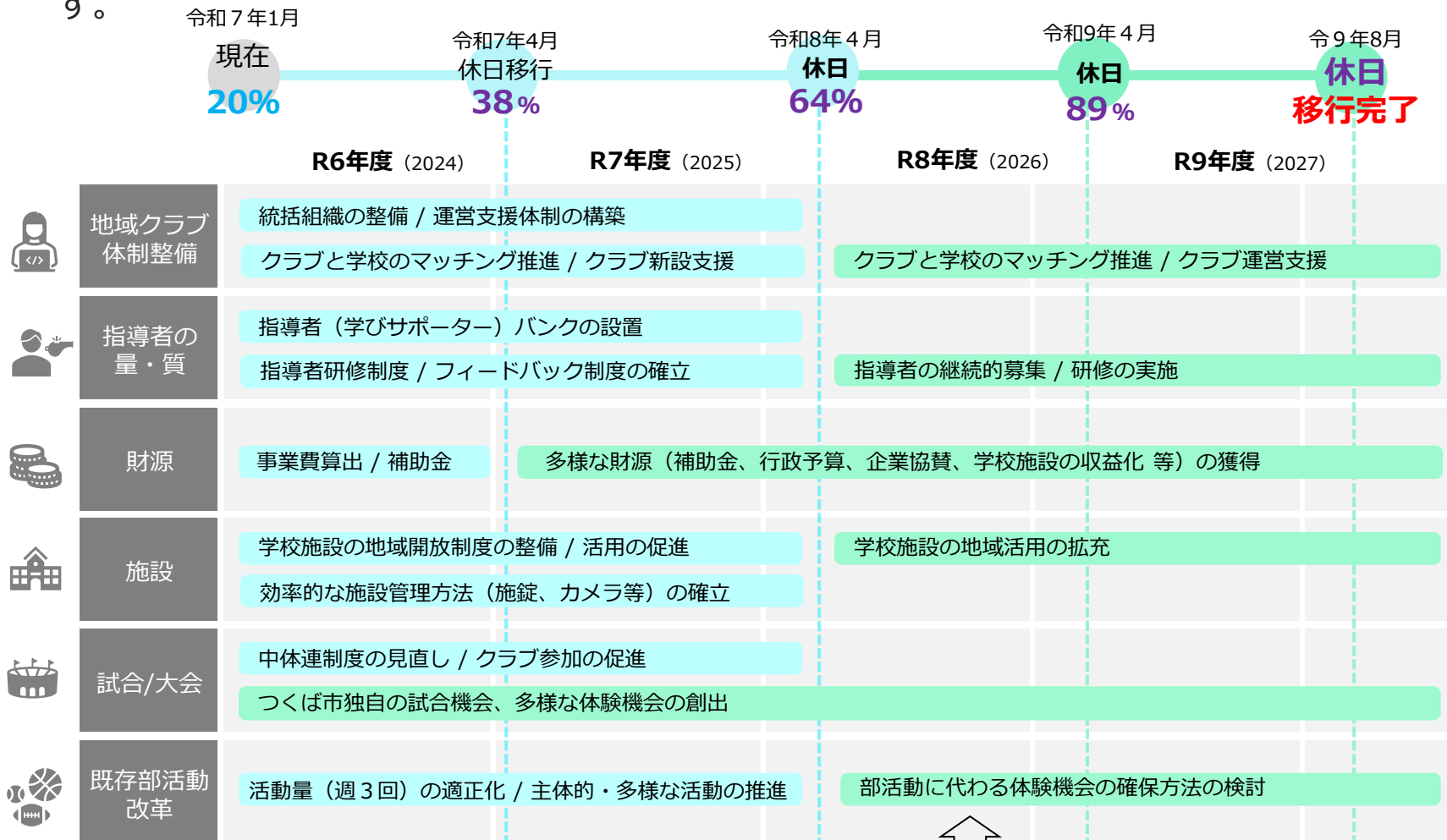
部活動改革の目標設定

■ 令和9年8月原則、休日の部活動の地域展開を完了します。



部活動改革ロードマップとアクションプラン

■ **令和9年中の休日の部活動地域展開を達成するためのロードマップ**とアクションで
す。



令和8年8月 地域連携により、休日に部活動を行う教員をゼロにする
※地域連携：地域展開等を主にしながら、部活動指導員等も活用